

令和5年度 県立結城第二高等学校自己評価表

No.1

目指す学校像	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンラインワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とし、 1 個に応じた指導を通し、向上心を高め、自己実現を目指す学校 2 自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校 3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校			
「三つの方針」 (スクールポリシー)	三つの方針		具体的目標	
	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーションポリシー)	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンラインワン、みんなが資源、みんなで支援」を基調とした教育活動により次のような生徒の育成を目指します。 1 基礎学力を身に付け、向上心を高め、自己実現を目指す生徒。 2 自己肯定感を高めながら、自他を理解・受容し、社会性が身についた生徒。 3 地域を大切に考え、地域社会に主体的・協同的に取り組める生徒。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	多様化する生徒の学習の形態を準備し、そのニーズに応えるとともに、生徒一人一人の自己理解、自己実現を促すために次のような教育活動を行います。 1 多彩な選択科目と少人数や習熟度を取り入れたわかりやすい授業を行います。 2 心のサポートを充実し、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動などにより、思いやりの心を育成します。 3 地域に開かれた学校を目指し、広い視野を備えた社会性と地域社会に貢献する姿勢を育めます。		
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッションポリシー)	お互いを大切にしながら学び合い、協力し合う学校を目指して、次のような生徒を募集します。 1 毎日の学習に誠実に取り組み基礎学力の定着に向けて努力しようとする生徒。 2 他者への思いやりの心を持ち、尊重しながら協力しようとする気持ちを持つ生徒。 3 地域社会に興味を持ち、社会貢献に目を向けることができる生徒。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
・自ら主体的に学習に取り組む姿勢が見られない生徒に対する指導。 ・学力格差のある生徒の集団の中での個に応じた指導方法の確立。 ・ICTを活用した教材を共有化及び授業準備等の支援のさらなる充実。 ・自己肯定感・自己有用感が見いだせず、物事に積極的に関わろうとしない生徒の自己啓発。 ・良好な人間関係づくりに対するサポート。 ・外部機関や地域との連携を通じた生徒の人間性の向上。 ・進路意識の向上と適切な勤労観や職業観の育成。 ・年次等と連携した進路ガイダンス等の充実。 ・基本的な学力を身につけさせるための各教科等との連携。 ・生徒育成の目標に基づいた、活発で円滑な学校行事の運営。 ・部活動の加入率の向上と活性化。 ・学級活動及びホームルーム活動を中心としてのキャリアパスポートを活用した系統化したキャリア教育の実施。 ・教職員の連携を強化し生徒理解の一層の促進。 ・教職員向けの研修会の実施、校外研修の積極的参加等による教育相談技術のスキルアップ。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャル ワーカー、部活動外部指導者、スクールサポートスタッフ等の外部人材のより一層の活用。 ・ワークライフバランスを意識した働き方の継続。 ・校務支援システムを有効的な活用と業務の効率化。 ・各教材やツールを活用した継続的な生徒の自立を促すための取り組み。 ・職員間の情報の共有とキャリアパスポートの有効な活用方法の工夫。		主体的・意欲的学習態度の育成による基礎学力の向上と、考える力の育成	① 言語活動を取り入れた授業形態等の工夫改善に努める。 ② 集団の中で個に応じた指導を可能とするように、学習環境を整備し指導力を高める。 ③ 生徒が主体的・意欲的に学習に取り組めるような指導を実施する。 ④ ICTを活用し生徒が自己学力の伸長を確認し、学習意欲の向上や考える力の育成につながる指導を実施する。	A
		規範意識の醸成、コミュニケーション力の向上を図り、自律的生活習慣の確立及び社会貢献できる豊かな人間性の育成	⑤ 自己肯定感を高め、自律的生活習慣を確立する等、健やかな成長の基礎形成を徹底する。 ⑥ 問題行動の早期発見に努め、関係機関との連携を深め、未然防止と早期解決に努める。 ⑦ 安全教育や情報モラル教育を推進する。 ⑧ 社会奉仕体験活動を充実させ、地域と連携した多様な活動を推進する。 ⑨ コミュニケーション力の向上や豊かな心育成とともに、規範意識を培うための取組を推進する。	B
		組織的な相談体制に基づく生徒の心理的な援助の促進	⑩ 研修会等を通して個々の教職員のスキルアップを図る。 ⑪ スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員が連携協力し、支援体制の充実を図る。 ⑫ 各生徒の心身の健康や発達についての的確な把握に努め、必要に応じて校内および外部諸機関との連携により、適切な対応をとる。	B
		一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	⑬ 特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導法の向上を図る。 ⑭ 学習上または生活上の困難に対応するための効果的な指導の工夫。 ⑮ 通級による指導では、「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、効果的に活用しながら一人一人の教育的ニーズに応じた指導をする。	B
		進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供	⑯ キャリア教育を組織的に推進し、社会性や職業観を養う。 ⑰ 進路ガイダンスの充実や適切な進路情報を提供することで、進路意識を向上させる。 ⑱ 多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	B
		より積極的な特別活動の広がりと実践	⑲ 多くの生徒が参加できる学校行事を企画・運営する。 ⑳ 学校行事や部活動を通して、生徒の主体性や積極性を引き出す。 ㉑ 特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心としてキャリア・パスポートを活用した活動を行い、系統的なキャリア教育を進め、生徒の自己理解、教員の生徒理解を深める。 ㉒ キャリアパスポートによって学習や生活の見通しを持たせることにより、目標の明確化と主体的継続的に取り組む態度を育成する。	B
		真に開かれた学校づくりと地域との連携の推進	㉓ 地域行事やボランティア活動への参加を推進するとともに、地域人材と連携を図り、協働して取り組む活動を充実させる。 ㉔ 学校設定科目での聴講生の受け入れや部活動等での地域交流を通し、相互の教育力を共有する。 ㉕ PTA活動の充実を図り、保護者との連携を深め生徒支援をより効果的なものとする。	B
		「働き方改革」と学校運営体制の充実	㉖ ワークライフバランスを意識した働き方を推進していく。 ㉗ 教科内・教科間における教材の共有や分掌間の情報共有を密にして、業務の省力化を図る。スクラップ・アンド・ビルドの考え方で慣習にとらわれず、業務を精選する。 ㉘ 「チーム学校」の実現に向け、スクールカウンセラー、部活動外部指導者、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフ等との連携を促進していく。	A
		授業改善による基礎学力の定着	㉙ 本校独自作成テスト「学びの基礎診断テスト」において各教科全体正答率が50%以上を占める。 ㉚ 教材・教具や学習のツールとして効果的にICTを活用し、基礎学力の定着を図る。 ㉛ 生徒による授業評価の授業満足度において肯定的な意見が8割以上を占める。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	生徒の習熟度に応じた授業の実践	生徒の習熟度に応じた指示や発問を工夫するとともに、適切な補助教材を作成し、理解や達成感を高める授業を行う。	②④	B	B 目的意識を持たせた学習意欲の喚起。
		指導方法の工夫による学習意欲の喚起	生徒が主体的に取り組めるように教材を精選し、補助教材を作成するとともに、ICT機器を積極的に活用するなど指導の在り方を工夫し、理解や達成感を高め、学習意欲を喚起する。	①③	B	
		基礎学力の向上	副教材の有効活用と漢字能力検定の利用により、基礎学力の向上を図る。	②④	C	
		授業改善	生徒の実態に合った評価規準の作成、および観点別評価を通して学習状況を的確に把握し、学力の向上に務める。	③	B	
	歴史・公民	主体的意欲的態度の育成	ICTを積極的に活用し、意欲・関心を高める授業を進め、基礎的な知識の定着を図る。	①④	B	A ICT機器の積極的運用と効果的な活用
		基礎学力の定着	現実社会の諸問題等を考えさせ、社会に適應できる一般常識や基礎学力を身に付けさせる。	②③	A	
		授業改善	生徒一人ひとりの理解度に即した授業展開と、ICT機器による統計、史料、地図等の効果的な活用	③	A	
	数学	個に応じた指導	習熟度別授業を展開することで、個々の能力に応じた指導を実施する。机間指導をこまめに行うことで、個々の生徒に対応した指導を実践する。	②③	A	A ・学習内容の定着が課題。 ・観点別評価ABCの基準をさらに明確にする。 ・必修がなくなる2年次以降の数学履修登録率の向上させる。
		基礎学力の定着	問題演習の時間を充実させ、学習内容の理解と定着を図り、主体的に授業に参加する姿勢を育てる。	③④	B	
		ICTを活用した授業づくり	ICTを活用した授業展開及び教材研究を行い、効果的な活用方法を検討する。	④	A	
		授業改善	相互授業参観や、ICT活用のサポートを行い、授業改善に努める。	④③	A	
	理科	関心・意欲の向上	観察・実験を重視する等、自然体験の機会を積極的に設ける。その際、生徒の班編制は活動しやすいものとし、必要ときはチームティーチングを行う。	①③	B	B ICT機器の授業活用が課題。
			教材を工夫し、主体性の向上を図る。	②③	A	
		基礎学力の向上	基礎的な学習内容についてテストを行い、理解度を調べると共に、基礎的な学力の伸長を図る。	④	A	
		ICTを活用した授業づくり	ICTを活用した授業展開及び教材研究を行い、効果的な活用方法を検討する。	④	B	
		授業改善	相互授業参観や、担当科目以外への授業参加・ICT活用のサポートを行い、授業改善に努める。	③	B	
	保健体育	体育	生徒や学校の実態に応じた指導計画の改善・充実 ・中学校第3学年との接続を重視し、学習の最終段階の役割を踏まえた指導計画の作成 ・各領域特有の特性や魅力を深く味わえることができる学習過程の工夫 ・体育と保健を関連づけた指導の充実	②③	B	A 【体育】 ・体育館にネット環境が整備されたので、ICT機器を活用し、体育領域特有の特性や魅力を深く味わえることができる学習の充実に努める。 ・電子黒板を体育館に配置してもらいたい。 【保健】 ・課題の発見と解決に向けた話し合い等の主体的・協働的な学習場面の設定し、情報の収集、意見の共有し、学習を深められたが、表現方法として模造紙だった。ICT機器を活用しプレゼンテーション能力の向上を図る。
			生涯スポーツにつながる指導方法の工夫改善 ・自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための言語活動の充実 ・工夫改善に向けた研修の充実 ・運動の実践では、自己観察や他者観察など、ICTの効果的な活用	③④	B	
		授業改善	指導と評価の一体化による授業改善や生徒の学習意欲の向上	③	A	
		保健	自他の健康の保持増進を実践する力育てる保健の授業の展開 ・課題の発見と解決に向けた話し合い等の主体的・協働的な学習場面の設定 ・情報の収集、意見の共有、表現等の場面におけるICTの効果的な活用	③④	A	
			授業改善 指導と評価の一体化による授業改善や生徒の学習意欲の向上	③	A	
	芸術	授業態度の確立	教室の利用、道具の準備やかたづけ等、ルールを守って授業に臨む態度を育てる。	⑨	A	B 芸術を通して自己表現をすることができた。授業に臨む態度もできている。優れた芸術に触れることと、ICTを効果的に活用していくことが課題である。
		基礎技術の習得と向上	生徒の技術力を向上させるためのサポートを常に心がける。	②④	A	
		表現力の養成	芸術を通して自己を表現することにより自己実現ができるよう、表現力を育成する。	③⑫	A	
		鑑賞能力の向上	すぐれた作品に触れる機会を増やし、身近に感じることができるようにする。	③	B	
		授業改善	実際に芸術に触れる機会を増やすとともに、ICTを積極的・効果的に活用する。	④	B	
	英語	基礎学力の向上	生徒に応じたワークシートの作成やアクティビティの活用によって、授業内容の定着を図る。	②③	A	B ICTを活用した授業の実践を心掛けることができた。その一方で、電子辞書の活用などの、課題も残った。資格取得への意欲については、その周知や実施について、今後、そのあり方について、検討をしていく必要がある。
			家庭学習課題を適宜生徒に課し、学習習慣を定着させる。	③④	B	
		学習意欲の向上	本校に適したCan-do(評価法)に改善を加え、生徒が自己評価を適切に行えるよう工夫する。	③④	B	
			資格取得への意欲を高められるよう、資格試験の内容を適切に授業に導入する。	③⑫	C	
		主体的なコミュニケーション能力の育成	協働学習を適切に授業に導入する。	③④	A	
			ICTを活用して、本校に適した英語によるコミュニケーション活動を実践する。	④⑨	B	
		授業改善	ICTを活用した、生徒との双方向による授業実践を向上する。	④③	B	
	家庭	基礎知識・技術の向上	教科内容・教材の精選・工夫し、ICTを利用しながら、少人数による個に応じた指導を行う。	②③	A	B ・教科内容・教材の精選 ・ICTを活用した授業や実習の工夫と改善 ・学校家庭クラブ活動の活性化 ・年間指導計画の見直し
			個々の生徒の進捗・達成度を把握し指導を行う。製作実習に関しては、完成までのプロセスを重要視し、指導を行う。	②④	B	
		創造的・実践的態度の養成	各種研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めるとともに、生徒の指導に生かす。 家庭クラブ活動等、課題解決学習を積極的に取り入れ、生徒が生活の中で生かせる能力を養う。	③⑫	A	
			授業改善	③⑫	B	
			相互授業参観やTTIによる生徒に合わせた指導や、ICTを効果的に活用した授業改善に努める。	④③	B	
	情報	指導方法の工夫と学習意欲の喚起	教科内容・教材の精選・工夫をし、情報社会において必要な基本的知識、モラル、マナーを身に付けるとともに、ICT機器の積極的・効果的な活用法を身に付けさせる。	③④	B	A 検定日程が土曜日であったが、受験者は例年と大きく変化が無く、上級合格者の割合も増加傾向にある。来年度に向けてプログラミング教育、プログラミング検定の指導法について研修を重ねていきたい。
		基礎知識・技術の向上	日本情報処理検定協会主催文章入力スピード認定試験(日本語・英語)、日本語ワープロ検定、情報処理技能検定(表計算)を実施し、資格取得への意欲を高め、技術の向上を図る。	①④	A	
		授業改善	TTIによるきめの細かい授業展開、学習活動端末支援システムを用いての授業改善	③	A	

※評価基準A:達成できた、B:ほぼ達成できた、C:あまり達成されていない、D:達成されていない

教務	授業時間の確保	行事等の精査により、授業時間の確保に努める。	③ ⑬	B	A	・教員入れ替えに耐えうる業務のマニュアル化、共有化を進める必要がある。 ・脱マクロで誰でも使え、継続できるシステムを使用する。 ・11月学校説明会を学校全体で実施する。 ・成績処理日程、工程、押印方法の再定義する。 ・新課程の全科目でABC評価を明確にし、試験日程予定とともに年度当初に生徒に周知できるようにする。
	本校独自の教育課程の検討	年間指導計画に基づき、観点別評価をふまえたシラバス作成を支援する。 教員間の公開授業により、授業スキルの向上を図る。	③ ④ ① ④	B A		
	ICT機器の有効活用	BYODの積極的な活用を推進するとともに、効果的な利用について検証する。 資料の電子化や情報共有システムを推進することで、業務の効率化を図る。	③ ④ ⑭ ⑮	B A		
	広報活動の改善、推進	魅力的なポスターや学校案内を作成するとともに、学校ホームページを活用した広報を推進する。 聴講生制度により、地域に関わった学校を目指す。	⑭ ⑮ ⑭ ⑮	A A		
	図書活動の充実と読書習慣の推進	図書館内の美化や図書の配置・整備をし、図書館利用の活性化を図る。 図書館利用のマナーを身に付けさせる。 生徒・教師のニーズに合わせた新刊図書・資料の充実を図る。 図書館だよりを発刊するとともに、図書委員会の活動を活性化する。	③ ⑭ ② ⑨ ③ ⑤ ④ ⑬	A A A A		
	持続可能な業務システムの構築	作業の精選やマニュアル化とともに、作業の共有を図ることで、人事異動等に影響されない本校の複雑な業務システムの構築を目指す。	④ ⑬ ⑮ ⑰	A B		
	生徒理解に基づく指導	アンケートや個別面談を始め、学校生活のあらゆる場面を利用して生徒理解に努める。 生徒に関する情報の整理・共有化を推進し、いっそうの生徒理解を図る。 個に応じた生徒指導を工夫・実践する。	⑥ ⑨ ⑫ ⑮ ② ⑭	B B A		
	自律的生活習慣の確立	年間を通した登校・下校指導により、個に応じた指導を行いつつ、規範意識の高揚を図る。	② ⑦	A		
	安全教育の推進及び環境整備	外部と連携した交通安全教室・自転車点検・日常の交通安全指導の実施によって、交通モラルを身に付けさせる。 外部と連携した携帯電話安全教室や防犯講話・平素からの情報モラルの指導によって、安全・適切なSNSの利用の仕方をも身に付けさせる。	⑦ ⑫ ⑦ ⑮	B B		
		年間を通した防犯パトロールや登下校指導等、生徒の安全・安心を守る取組を継続する。	⑥	A		
生徒指導	豊かな人間性の育成	ゲストティーチャーによる講話やマナーやルールについて考える機会を持つことにより他者理解や豊かな心の育成を図る。	⑦ ⑫	B	B	・教員間・年間間での指導の差。 ・自転車通学以外の生徒の保険加入。 ・発達障害・病氣以外に配慮が必要な生徒についての指導法の共有。
	地域との連携	関係機関や地域内学校との連携・協体制を継続・発展させる。 地域で働く人や住民から「結城二高サポーター」として、生徒指導の協力を得る。	⑥ ⑫ ⑬	B B		
	ホームルーム活動及び学校行事の充実	多くの生徒が参加できるようにホームルーム活動や学校行事の形態を工夫する。 担任との連携を密にしなが、多くの生徒が参加できる三部合同の体育祭を企画・運営する。 行事を活用することで、生徒の社会性及び主体性の育成を図る。 生徒会本部役員のリーダーシップを生かした学校行事にする。 キャリア・パスポートを活用した活動を行い、生徒の自己理解、教員の生徒理解を深める。	⑬ ⑬ ⑬ ⑰ ③ ⑨ ⑰	A A A A B		
	部活動の充実	多くの生徒が部活動に参加できるように、各部顧問・体育科等と連携を密にし、活動場所、活動時間等を確保する。 部活動の活動計画を明確化することにより、活性化を図る。	⑰ ⑰	A A		
進路指導	職業観・勤労観の育成	キャリア教育を計画的に進め、社会的・職業的自立に必要な能力を養成する。関係諸機関と連携し、インターンシップを実施する。	⑬ ⑰	B	B	・部内での情報共有を徹底する。 ・先を見通し、余裕を持って進路行事を計画する。 ・配慮を要する生徒の進路に関して、外部機関と連携していく。
	進路意識の確立	修了までを見通した進路講話・進路ガイダンス等を各年次と協力して計画・実施し、卒業後の生活が自立したものになるように考えさせる。	③ ⑰	B		
	学力の向上	教務・年次と連携した課外授業を実施し、上級学校進学に必要な学力を養成するとともに、推薦入試や就職試験対策としての面接指導を計画的に実施する。	③ ⑬	B		
	志望進路の把握	進路希望調査を実施して、生徒の志望進路の把握に努めるとともに、各年次と連携して適切な指導を行う。	③ ⑬	B		
	資料・情報の収集整理	生徒や職員が必要とする資料や情報の収集・作成・提供の効率化を図る。	⑰	B		
保健厚生	生徒が学習するための環境整備と安全教育	生活範囲の環境美化に努めることを通して、環境美化意識を養う。 安全教育を通して、危機を回避する意識を高める。	⑤ ⑤ ⑦	A A	A	生徒の心身の健康状態について共通理解を図るために、教職員間での情報交換をしていく。
	心身の健康促進	心身の健康の状態を的確に把握し、自主的に健康を保持増進する意識を持たせる。 健康講話を通じて、正しい知識を身に付けさせ、健康で安全な生活を送れる力を養う。 教職員や関係諸機関と連携をとり、生徒の心身の健康状態について共通理解を持ち、適切に対応できるよう努める。	⑤ ⑤ ⑦ ⑩ ⑪	A A B		
	保護者と教職員の協力と連携	保護者と教職員が連携し、円滑なPTA活動が行えるよう、クラス担任を中心に積極的に保護者に働きかける。	⑮	B		
	PTA活動の活発化	各専門委員会、理事会等の活発化のため、本部役員と連絡を密にし、保護者の参加率の向上に努める。	⑮	B		
渉外	同窓会と連携協力	同窓会活動が円滑に行われるよう、連携協力に努める。	⑮	B	B	・PTA活動の周知方法について改善する。(公式LINEやアンケート機能を活用して、ペーパーレス化を図るとともに、教員の負担軽減と効率化を図る。) ・あいさつ運動は、2回目では参加率は約40%であった。役員だけでなく、多くの保護者が学校や生徒の活動に関心をもてるよう、きっかけの1つとして「威の音」の紙面工夫に努める。
	コーディネーター	組織的な相談体制作り、個に応じた対応の強化	⑩ ⑪ ⑰	B A		
	一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実	カウンセリングや特別支援教育等に関する研修会を実施し、個々の教職員の専門性向上を図る。 スクールカウンセラー、キャンパスエイド及び関係職員が連携協力し、支援体制の充実を図る。 生徒の心身の健康の状態を的確に把握できるように各年次・部との連携を密にし、さらに関係機関とも連携しながら、個に応じた適切な対応を図る。	⑩ ⑪ ⑰ ⑫	B A B		
		特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導の充実を図り、特に配慮を要する生徒に関しては、「通級による指導」を実施して生徒が自己理解を深めながら、課題克服に向けて学習に取り組めるように指導する。	⑬ ⑮	A		・生徒情報のデータ整理や効果的な共有方法などに課題が残る。次年度以降は支援システムの利活用で改善を図る。 ・自己理解ワークにおける教材研究に力を入れ、「通級による指導」を通して実践することができた。

※ 評価基準 A:達成できた、B:ほぼ達成できた、C:あまり達成されていない、D:達成されていない

1年次	自己理解と自己肯定感の向上	学校生活の様々な場面における経験・体験を成長へとつなげるとともに、自己理解と自尊感情の向上を図る。	⑧ ⑪	B	B	個別対応を主に強化して行う1年だった。臨時的に対応する機会が多く、負担の大きい教員がいたり、より計画的に対応を練る必要性を感じた。 また、年次外への情報共有を統一して行うことが難しく、現状ではこまめに連絡していくしかない。今後、よりよい方法を検討していきたい。		
		進路ガイダンスの実施や進路情報の提供により、興味・関心・適性等の自己理解を促す。	⑪ ⑬	A				
		生徒・保護者の特性や問題について、教員間での情報共有を密にするとともに、支援方法に配慮しながら関わる。	⑫ ⑬	A				
	基本的な生活習慣の確立と社会性の向上	登下校指導において、挨拶・身だしなみ・礼儀正しい態度の育成を図る。	⑨ ⑫	B				
		生徒とともに美化活動に取り組み、快適な学習環境を提供する。	⑧ ⑬	B				
		情報モラル教育を推進し、情報化社会における態度の育成を図る。	③ ⑩	B				
基礎学力の向上	関係職員と連携し、生徒理解に努め、個に応じた適切な学習支援を行う。	② ⑬	B					
	ホームルームの中で学習時間を確保し、基礎学力の向上を図る。	③ ④	B					
	2年次	個に応じた指導と向上心の育成	個に応じた指導により、各生徒の自尊感情や自己肯定感を高め、向上心の育成を図る。	② ⑤	A	B	生活習慣を確立させる。 職員間の情報共有を行い、個に応じた指導を充実させていく。 進路実現のため、自己理解、職業理解の指導を深める。	
自他理解と社会性の伸長			修学旅行等の学校行事を通して、自らを育むとともに、他者を理解・受容する態度の育成を図る。	⑧ ⑫	A			
			自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが、具体的な態度や行動に現れるような実践的な態度の育成を図る。	⑥ ⑨	B			
		進路実現に向けた進路指導の充実	自分の行動について見つめ、考えることのできる指導の工夫と自己指導能力の育成を図る。	③ ⑨	B			
進路指導部と連携し効果的な進路指導を模索するとともに、個に応じた適切な進路目標を設定させる。			⑪ ⑬	B				
ホームルーム、ガイダンス等で進路について考える時間を確保し、進路実現に向けて取り組む。			③ ④	A				
3年次	組織的な相談体制に基づく生徒の心理的な援助の促進	関係職員と連携・協力し、支援体制の充実を図る。	⑪ ⑫	B	B	・個に応じた学習の充実に努め、成長を支援する。 ・自立した社会人になる為に自己理解を深め、自律的な生活習慣を確立する。 ・卒業単位を修得し、卒業できるよう支援する。 ・4年次の目標と同じ		
		各生徒を理解・把握し、職員への情報共有に努める	⑪ ⑫	B				
		一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実	合理的配慮を要する生徒の理解、指導と評価の改善を図る	⑬ ⑭			B	
	学習、生活上の困難に対応できる力を身につける指導		⑬ ⑭	B				
	進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供		進路ガイダンス、面接指導の充実や適切な進路情報を提供し進路意識を向上させる。	⑫ ⑬			B	B
		多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	⑫ ⑬	B				
カウンセリングコーディネーターと協力し、合理的配慮を要する生徒の進路実現を図る		⑫ ⑬	B					
4年次	個に応じた指導と目標実現	進路指導部、特別支援教育コーディネーター及び外部機関等と連携しながら、適切な進路選択及び目標実現を目指すことができるよう支援する。	⑫ ⑬	B	B	生徒のニーズに応じた進路指導を行うことが出来た一方で、その実現に困難を伴う生徒もいた。他方、社会人としての基礎を育成できた。		
		自己理解及び成人としての自覚を深めるとともに、自立した社会人の基礎を醸成する。	⑤ ⑭	B				

※ 評価基準 A:達成できた、B:ほぼ達成できた、C:あまり達成されていない、D:達成されていない

1年次	自己理解と自己肯定感の向上	学校生活の様々な場面における経験・体験を成長へとつなげるとともに、自己理解と自尊感情の向上を図る。	⑧ ⑫	B	B	個別対応を主に強化して行う1年だった。臨時的に対応する機会が多く、負担の大きい教員がいたり、より計画的に対応を練る必要性を感じた。 また、年次外への情報共有を統一して行うことが難しく、現状ではこまめに連絡していくしかない。今後、よりよい方法を検討していきたい。
		進路ガイダンスの実施や進路情報の提供により、興味・関心・適性等の自己理解を促す。	⑪ ⑬	A		
		生徒・保護者の特性や問題について、教員間での情報共有を密にするとともに、支援方法に配慮しながら関わる。	⑫ ⑬	A		
	基本的な生活習慣の確立と社会性の向上	登下校指導において、挨拶・身だしなみ・礼儀正しい態度の育成を図る。	⑨ ⑫	B		
		生徒とともに美化活動に取り組み、快適な学習環境を提供する。	⑧ ⑬	B		
		情報モラル教育を推進し、情報化社会における態度の育成を図る。	③ ⑬	B		
2年次	基礎学力の向上	関係職員と連携し、生徒理解に努め、個に応じた適切な学習支援を行う。	② ⑬	B	B	生活習慣を確立させる。 職員間の情報共有を行い、個に応じた指導を充実させていく。 進路実現のため、自己理解、職業理解の指導を深める。
		ホームルームの中で学習時間を確保し、基礎学力の向上を図る。	③ ④	B		
		個に応じた指導により、各生徒の自尊感情や自己肯定感を高め、向上心の育成を図る。	② ⑤	A		
	自他理解と社会性の伸長	修学旅行等の学校行事を通して、自らを育むとともに、他者を理解・受容する態度の育成を図る。	⑧ ⑫	A		
		自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが、具体的な態度や行動に現れるような実践的な態度の育成を図る。	⑥ ⑨	B		
		自分の行動について見つめ、考えることのできる指導の工夫と自己指導能力の育成を図る。	③ ⑨	B		
3年次	進路実現に向けた進路指導の充実	進路指導部と連携し効果的な進路指導を模索するとともに、個に応じた適切な進路目標を設定させる。	⑪ ⑬	B	B	・個に応じた学習の充実に努め、成長を支援する。 ・自立した社会人になる為に自己理解を深め、自律的な生活習慣を確立する。 ・卒業単位を修得し、卒業できるよう支援する。 ・4年次の目標と同じ
		ホームルーム、ガイダンス等で進路について考える時間を確保し、進路実現に向けて取り組む。	③ ④	A		
		関係職員と連携・協力し、支援体制の充実を図る。	⑪ ⑫	B		
	組織的な相談体制に基づく生徒の心理的な援助の促進	各生徒を理解・把握し、職員への情報共有に努める	⑪ ⑫	B		
		一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実	⑬ ⑭	B		
		合理的配慮を要する生徒の理解、指導と評価の改善を図る	⑬ ⑭	B		
	進路意識の向上及び進路実現に必要な能力の育成と情報提供	学習、生活上の困難に対応できる力を身につける指導	⑬ ⑭	B		
		進路ガイダンス、面接指導の充実や適切な進路情報を提供し進路意識を向上させる。	⑬ ⑭	B		
		多様な生徒に対応した指導に取り組み、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。	⑬ ⑭	B		
4年次	個に応じた指導と目標実現	カウンセリングコーディネーターと協力し、合理的配慮を要する生徒の進路実現を図る	⑬ ⑭	B	B	・職員間の連携を強化し、個に応じた進路選択及び目標実現を目指す環境を整える。 ・合理的配慮を要する生徒の進路指導について具体的な方向性を早い段階に決定し、外部機関と連携を進める。 ・早い段階で生徒の意思を確認し、指定校推薦の申し込み等の準備を進める。 ・4年次の目標と同じ
		進路指導部、特別支援教育コーディネーター及び外部機関等と連携しながら、適切な進路選択及び目標実現を目指すことができるよう支援する。	⑫ ⑬	B		
		自己理解及び成人としての自覚を深めるとともに、自立した社会人の基礎を醸成する。	⑤ ⑭	B		
				B		

※ 評価基準 A:達成できた、B:ほぼ達成できた、C:あまり達成されていない、D:達成されていない